



ベストピアは小原靖夫の個人誌です

2013年12月号 第322号

www.bestopia.jp

意味深い一年間を振り返って

(1)民生委員・児童委員になる

自由人になってわがままな生活を望んでいましたが、残暑の厳しい9月のある日、自治会長さんが来られ、なり手がいないので引き受けて欲しいと率直な依頼をされました。相当困っておられるようでこれ以上、炎天下会長さんを歩かせるのは気の毒だと思い承諾しました。その後何の連絡もなく選考されなかったのだと安堵していましたが、11月末、一枚の通達が届き、12月は想定外の忙しさになりました。

70歳を過ぎるといろんな役から解放されると思って、それ迄には、お役に立てることならと監査委員、国勢調査委員等させていただき、もうこれ以上はないと安心していました。自治会も、市も私がベストチョイスとは考えてはいません。この地区では一番の新参者で、運転免許も持っておらず、最も山深い所に住んで活動には不自由であることを知っています。特に私が、何でもすぐに改善に手をつけ非効率な伝統を否定するので行政向きでないことは行き渡っています。

選考が難航した事は想像に固くありませんが、困っておられる会長さんを見て、「義をみてせざるは勇なきなり」との言葉に動かされてしまいました。

(2)民生委員・児童委員とは

さて、民生委員・児童委員とは一体何であるか？12月はその研修に体力を備えなければなりませんでした。臆げながらわかってきたことは、「民生委員・児童委員とは法律に基づいて「社会奉仕の精神をもって、常に住民の立場にたって相談に応じ及び必要な援助を行い、もって社会福祉の増進に努めるものとする」(民生委員法第一条)、その範囲は特定されていないようです。そして、第十条には、「民生委員には給与を支給しないものとし、その任期は3年とする」とあります。極めて命令的です。

民生委員の働きぶりをみて多くの人は無給だとは思っていません。無給だとは思えない働きをしている民生委員が多いのです。

96年の伝統があるとのことで、大正6年に始まっていますが、戦後GHQによって民主化されたようで、一般的には1948年に施行されたことになっています。現在全国で26万人いるそうです。成り手がいなく困っているのが実情です。興味深い定年制があります。私のような新人は73歳までしかなれない。但し一旦なると定年はないとのこと。従って新人研修を受けている中では最年長ですが、お世話役の役員さんには沢山の先輩がおられます。児童委員を兼ねますので若い女性がおられます。主任児童委員という方もおられ健全な児童の育成に貢献されています。

私は制度には批判的ですが、献身的にボランティア活動に励んでおられる若い人に頭が下がります。

(3) 一步を踏み出す

承諾したからにはその任務を忠実に果たさねばなりません。3年間は神さまから特別に与えてくださる命だと信じて取り組み始めました。

挨拶状を作成し、全戸を周りました。幸い小さな自治会ですので他と比較すると楽な方です。研修会で話された先輩民生委員は一人で300戸以上を担当しているとのこと。私には信じられません。大都会ではもっと大変と知人から教えていただきました。

研修会で、Nさんに出会ってビックリ、私達夫婦が頼まれ仲人をした方で、私の本の出版にも力を注いでくださった人で、今は3児の母となり地域の児童のお世話をするために民生委員・児童委員に推薦されると話してくれました。他にも保育園を献身的に運営されておられる知人にも会い、私の頑なな心が少し前に向きました。こんな役割もあるのだとしたら、これらの若い人を応援しなければならない、行政がしたがらない、任せられない仕事もあるのだと分かり気持ちを切り換えて、自分の気持ちの中にある自発性を大事にして取り組んでいこうと決心しました。

自分の為だけでなく、ほんの少しの時間を他人に向けて、心豊かに生きるようにさせてくださる神に感謝して頑張ります。

(4) 召天者を思う

滝沢ハルエ先生の召天で始まり、12月29日は佐藤文子姉の告別式があります。

12月のベストピアは、何故か遅れに遅れましたが、民生委員になったのが理由ではなかったようです。その意味がわかりました。佐藤文子姉の召天がありました。

今年は22日がクリスマス、その祝会の為に「1945年のクリスマス」と題して短い話をコンピューターに書き込みましたが、書きながら、この話を一番解ってくださるのは佐藤文子姉だと思い、臨席いただけないのが残念でしたが、その時に召天されたのです。クリスマス・イブをご自宅で過ごされたかたのしょう。29日に葬儀式があります。

弟が2年半の闘病と良い証を遺して召されましたのも今年の10月で、69歳でした。銀座教会での感動的な告別式でした

(5)全てに時がある。そして感謝

兎に角このベストピアを完成させねばと急いでおります。

12月もよく動きました。感性論哲学研究会、高岡整志会病院研修会で「学び共に希望を語る」ことができました。何処へ行っても歓待していただいて感謝の言葉がありません。

ホテル宿泊日数は10日泊

第九は5回(東京)、キエフバレエとミサソレムニス(東京)、アップル2回研修、現役以上の活動力です。起き上がれない日もありますが、健康が支えられております。

そして近藤学君がマイケル・E・ガーバーの「あなたの中の起業家を呼び起こせ！」(普通の人がすごい会社をつくる方法)を翻訳出版と嬉しいことも続いております。

年末年始は孫の国語を特訓します。大晦日はコバケン(小林研一郎)指揮のベートーヴェンチクルス、交響曲の全てを一日で演奏します。それを聴きに行きます。第九は深夜になりますが、ソプラノは森 麻季という豪華版です。

喜怒哀楽から怒を除いた生活が赦されています。感謝に耐えません。

今月書いた手紙ハガキは70通、遂に封筒が無くなりました。7年前のまだ現役であったとき、私用専用封筒を作成し公私混同を避けていました。その時も何枚作るか少し悩みました。今回はもっと悩みました。1000枚書く自信はありません。セトプリントさんに相談して500枚お願いしました。このように自分の終わりを感しながら判断することが増えてきます。短くなっていくロウソクの芯ですが渋い光りを放つのもまたいいものです。すべては神さまに守られて在ります。

第九の研究者、藤井義正氏は、第四楽章の合唱の訳「抱き合え」ではなく、

「抱かれてあれ」と訳すべきと主張されています。私も、そのように感じています。

間も無く2回目の第九が始まります。歓喜の歌を聴き、歓びに満たされ、感謝して今日を終わりたいと思います。

皆様も良い新年をお迎えくださいませ。お祈りしています。



この作品は妻・厚子のものです。

来月のトップ写真にします。

「何ごとも馬くいく」

アクロバットしている9匹の馬です
馬九＝うまく。。。いいですね。